

令和7年度 学校評価シート

<p>東海市立横須賀中学校</p> <p>住所 東海市高横須賀町猫狭間2番地 電話番号 0562-32-2241 児童/生徒 737名 校長名 岩田久徳 23学級 (内 特支3)</p>		<p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質実 (実質を重んじ、自らを律する) ・ 勤勉 (心身を鍛え、学び続ける) ・ 奉仕 (他者を思いやり、主体的に動く) <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会やコミュニティの組織がしっかりしており、地域的な教育力もよく残っている。 ・ 保護者の多くが本校出身者であり、学校への協力体制もよくとれている。 	資料等				
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】 令和8年2月6日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)	
<p>知 学習指導の充実</p>	<p>○基礎・基本の習熟 ○「分かる」「できる」を実感できる授業づくり ○主体的に学ぶ学習者の育成 ○個に応じた学習方法の充実</p>	<p>○生徒・保護者・教師の学習に関するアンケート結果を比較・分析し、本年度、学校体制で取り組んできた現職教育の取組や教師研修の成果を考察する。評価項目は、生徒「授業は楽しく分かりやすい。」、保護者「お子様は授業は楽しくて分かりやすいと言っている。」、教師「楽しく分かりやすい授業を実践している。」等、共通項目の本年度結果を中心に比較・分析するとともに、それぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。また、各種学力検査の結果についてもアンケートと合わせて分析し、評価に生かす。</p>	<p>○「楽しく分かりやすい授業」に関しては、81.6%の生徒が「授業が楽しい」と評価しており、過去3年間の傾向を分析しても毎年肯定的な数値を示している。保護者に関しては56.8%が「お子様が授業は楽しく分かりやすいと言っている」と評価している。今年度は子どもを主語にした質問内容となっているため、昨年度との比較は安易にできないが、5.3%減少している。教師は93.1%と昨年度に引き続き高い評価となっている。「自らが変わろう」という意識をもって研究・研修に臨んでいる」や「現職教育のテーマを意識した授業の実践に取り組んでいる」の数値は9割を示しており、生徒の「分かる」「できる」を実感させるための授業づくりが、生徒や教師のアンケートの数値として表れていると言える。ただ、教科間による格差、保護者が子どもたちとの会話から捉えている実態には乖離が見られる。</p>	<p>○生徒の「授業が楽しく分かりやすい」の中でも「よくはてはまる」の数値が昨年度より高い割合となっている。基礎基本の定着を目指し、授業計画の立て方の研修を重ねたことで、生徒の学びにつながっていると見える。多様な学びの手だてを構築し、相互に学び合える場が設定されたことも要因の一つである。また、質問のしやすさについては、昨年度より4%増加した。今後も教師が生徒の実態を的確に捉え、必要な支援の在り方を検証し、全校体制で授業づくりの技量向上に向けた研修を継続的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>○昨年度より各教科の評価結果の傾向の変化が見られる。どうしてこのような結果になったのか、この変化はネガティブなものなのかなど、深掘りして検討していく必要がある。○評価の下がっている教科については、教師同士が互いに学び合う場を設けたり、見て学べるような手だてを考えていくとよい。○困ったときに相談できる先生がいるという項目については、数値が増加しており、大変すばらしいことである。その一方で、これからは教師の姿勢が大切になってくる。いろいろな困りごとを抱えている生徒たちに対して、いつでも受け止めるというメッセージを発信し、誰か一人で話せる大人がいることが大切である。○不登校の生徒たちの声を受け止められるようにするとよい。学校をどのように見ているか分析することも必要ではないか。</p>	<p>【現職教育の推進】 ○教師の力量・意識向上のための取組 ・研修会の企画、研修会への参加(最新の情報を得る)を増やす。 ・「分かるできる」を実感できる授業づくりの研修を年間計画に位置づける。 ・ICT機器の効果的な活用方法を検証する。 ・生徒理解研修を取り入れる。情報共有を図り、多面的に捉える力を育成し実態把握に努める。 ○授業の取組等についての保護者への発信 ・授業参観を実施する。 ・本校の取組や授業での取組について学校通信を通して広く発信していく。</p>	
<p>徳 豊かな心の育成</p>	<p>○協働的な学びを通して関わりを深める授業づくり ○奉仕活動や思いやりをもった人権教育の充実 ○ICT機器の効果的な活用の検証</p>	<p>○生徒・保護者・教師・地域住民のアンケート結果を比較・分析する。評価項目は、「授業を通して、自分の意見や友達の意見をお互いに伝え合うことが得意になってきた。」「毎日の清掃活動や係の仕事の責任をもって行っている。」「学校祭や合唱祭等の学校行事が心の成長に役立っている」等、四者共通となっている項目を中心に比較・分析するとともに、それぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。また、教師による「学校運営に関わる年度末反省」や活動に参加した生徒の活動記録・感想等も評価の参考とする。</p>	<p>○「タブレットを活用した学習を通して、友だちと考えを交流したり、自分の考えを深めたりすることができている」では、65.6%の生徒が肯定的な評価をした。また、「自分の意見や友だちの意見をお互いに伝え合うことが得意になってきた」では、71.7%の生徒が肯定的な意見であった。過去3年間の傾向を分析すると、いずれも7割の生徒が協働的な学びから自身の考えを伝える力を伸ばしていると言える。また、教師の取組に対する意識は90.9%と高い数値を示しており、授業展開の工夫・改善を積み重ね、生徒の力を伸ばす実践に努めていると言える。 ○清掃活動や係活動については、89.7%の生徒が自身の役割を誠実に果たしていると回答している。 ○「学校行事が生徒の心の成長につながっている」では、生徒・保護者・教師・地域住民ともに80%以上が「あてはまる」と回答している。</p>	<p>○基礎基本の定着とともに、協働的な学びを大切にした授業展開により、生徒同士が対話する場面は設定されている。タブレット端末に限らず、ワークシートを活用したり、ペアやグループでの話し合いの場などの教科でも取り組まれているため、他と関わり合い学び合う姿が見られる。そのためにも、教師と生徒とのよりよい関係の構築が欠かせない。 ○清掃、係活動においては、仕事の意義や自身の役割を自覚し、自発的に活動できるように継続した指導が必要である。 ○学校行事においては、生徒たちが主体となって活動できる場を増やしている。学校祭はもちろんのこと、集会においても、生徒会が中心となり生徒たちの手で運営している。他の生徒の取組を知る機会となり、自発的な活動につながっている。生徒の思いや願いが実現するように、よりよい手だてを模索し、生徒の成長につながるよう努める。</p>	<p>○「自分の意見や友だちの意見をお互いに伝え合うことが得意になってきた」の数値が向上しているのはよい。目を見て声を聞いて表情を見て関わっていくことで感情が揺さぶられる。見えないところがあるからこそ、顔を見て対話することが大切である。○自分と違う意見を拒絶するのではなく、受け止められる力を育てていくことが大切である。立場や見方を変えれば受け止め方も変わってくる。相手と話し合う活動を基盤としながら人間力を育んでいきたい。 ○学校行事での取組の様子から、生徒たちが場に応じた鑑賞態度で臨んでいてすばらしい。メリハリがあり、楽しそうな様子が伝わってきた。真剣に取り組んでいる姿から、教師が生徒たちに対して細やかに指導しているからこそであり、教師と生徒の関係がうまくいっていると言える。これまでの活動を今後もぜひ継続して行ってほしい。</p>	<p>【主体的・対話的で深い学びの実践】 ○協働的な学びの充実 ・ICT機器を活用した学び合いの手立てについて検証を進める。 ・生徒同士の関わりを深める研究授業を行う。 ○自己肯定感や自己有用感を高める取組 ・生徒会活動の充実を図る。 ・生徒が主体的に活躍できる場を全校集会等に仕組む。 ・学校行事の充実を図る。 ○清掃活動や係活動の充実 ・日常生活において、生活環境の整備や係活動に責任をもって取り組む姿勢を育む。 ・校内ボランティア活動を充実させ、特にY P D活動の参加人数を増やす取組を行う。</p>	
<p>体 基本的生活習慣の確立</p>	<p>○時、場所、状況に応じた行動(時間、決まり、マナーの遵守) ○あいさつの励行 ○健康意識の向上 ○食育の充実</p>	<p>○生徒・保護者・教師のアンケート結果を比較・分析し、生徒の体力・健康、及び安全に関する取り組みの成果を考察する。評価項目は、「学校の決まりを守って生活をしている。」「交通ルールをしっかり守って登下校している。」「家や近所の人にあいさつをしている。」「食事や運動、睡眠時間の確保など、健康を考えた生活を心がけている。」等、共通項目を中心に比較・分析するとともにそれぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。</p>	<p>○「学校のきまりや交通ルールの順守」では、毎年90%以上の生徒が肯定的な回答をしており、保護者、教師ともに85%以上が肯定的な回答である。過去3年間の数値と比較しても継続的に取り組めており、日々の学校生活でのメリハリのある活動の様子や規範意識の高さが伺える。また、あいさつについては、80%以上の生徒が家庭や地域でのあいさつを心がけて生活できていると回答している。特に地域の方からは「わからない」という回答率が減少し、12.1%増加している。ただ、校内におけるあいさつの状況は昨年度より「あまりあてはまらない」の数値が増加している。 ○生活習慣の面では、70.6%の生徒、64.3%の保護者が「健康を考えた生活を心がけている」と回答している。いずれも昨年度よりも数値は減少している。「テレビ、ゲーム、スマホの利用の約束」については、生徒は50.8%、保護者は54.8%である。学校保健委員会の活動を通して健康を意識はしているものの、スマホやゲームの影響の大きさが伺える。</p>	<p>○学校生活を安心して送ることができていることが、回答から読み取れる。今後も高い水準を保ち誰にとっても安心して過ごせる環境づくりに努めたい。その一方で、校外での歩き方や自転車の乗り方については、保護者や地域の方からご指摘を受けている。肯定的な回答の割合は高いが、命に関わることであるため、今後もいっそうの安全指導に努めていきたい。 ○ゲームやスマホの使用による健康面や人間関係のトラブルが後を絶たない。ICT支援員による授業や学校保健委員会による健康に関する取組などを継続して行っている。学校だよりを通じた保護者への啓発活動や授業実践を通して意識の向上を図っていきたい。</p>	<p>○地域の方の数値が向上しているということは、生徒たちがきちんと取り組んでいることが、周りの方にも伝わっているからである。生徒たちが素晴らしい。 ○スマートフォンの使い方については、コミュニケーションのツールとして大変便利であるが、その一方でデジタルタトゥーとなる怖さもある。小さな画面に飲み込まれ、画面の中でのみの世界での関わりとなっている。子どもだけでなく、大人にとっても大きな課題である。 ○SNSでの情報発信は、日記の概念から脱出してない。自分だけの世界で情報を発信していたものが今や世界に発信されてしまうツールとなっている。学校での情報モラル教育や授業等での啓発については今後も継続して取り組んでいただきたい。また、家庭との協力も不可欠である。大人も子どもも適切にSNSを使用することが課題である。</p>	<p>○交通マナー向上への取組 ・定期的な交通安全指導の実施と継続的な自転車利用指導を行う。 ○保健意識の啓発 ・生徒の実態からテーマを設定する学校保健委員会を開催する。 ・スマホ、ICT機器の利用に関する授業を行い、健康面からのアプローチを行う。 ○食育の充実 ・年間計画に基づいた指導の徹底を図る。 ○挨拶の励行 ・教師から率先垂範して挨拶をする。 ・生徒自身が自ら気づき考え行動できるような自発的な活動の充実を図る。</p>	
<p>地域 連携 開かれた学校づくりと地域の誇りとなる学校の構築</p>	<p>○地域に貢献し、地域の誇りとなる学校づくり ○積極的な学校からの情報発信 ○地域との連携(地域行事への参加、ボランティア活動の推進)</p>	<p>○生徒・保護者・教師・地域住民のアンケート結果を比較・分析し、学校と保護者・地域との連携に関する取組を考察する。評価項目は、生徒「地域の人にあいさつを行った」、保護者「保護者として学校公開や学校行事、PTA行事などに積極的に参加している。」、教師「地域行事等にボランティアとして参加したり子どもたちの応援に出かけたりしている。」、地域「学校は地域の活動や行事によく協力している。」などの四者の連携に関する内容と、学校からの情報発信に関する内容を中心に、昨年度とも比較・分析する。</p>	<p>○生徒の地域との関わりを問う設問では、53.4%と、昨年度より6.4%減少した。教師に関しても50%と減少している。今年度の9月から休日の過ごし方が大きく変化し、それぞれの生活スタイルに合わせた過ごし方になっていると考えられる。その一方で、昨年度より取り組んでいる校内ボランティアには、多くの生徒たちが積極的に参加している。このことからボランティア活動への関心は高いと言える。 ○学校からの情報発信については、保護者の評価は3.1%、地域住民は9.3%増加している。学校公開等で学校の様子を見る機会に足を運んでくださる保護者が増えたことや、地域に発信している学校だよりや生徒たちの地域での活動を支援して下さる機会があり、関わり合う場面が広がったと考える。</p>	<p>○昨年度から取り組んでいる校内ボランティア活動が定着し、多くの生徒たちが積極的に活動している。校内の環境整備を通して、自分たちの学校に誇りや愛着をもって関わり合えるように心を育んでいきたい。 ○地域の伝統行事に多くの生徒たちが参加している。地域の一員として活躍する姿は大変頼もしい。生徒たちは地域の宝である。その成長を支えていけるように、コミュニティとの連携も大切にしていきたい。 ○学校公開日には多くの保護者が来校してくださり、間近で生徒が活躍する様子を見ていただくことができている。保護者と相互理解を深め、生徒たちの成長を共に支え、育んでいけるように密に連携を図ってきたい。</p>	<p>○ボランティア活動が活発に行われていることはすばらしいことである。子どもの頃からこういった活動が身近にあり、関わっていくことでボランティア精神が育まれる。活動に対する理解も深まり、大人になってからも自然と活動に取り組めるようになる。ただ、ボランティア活動は楽しいだけではないことを学ぶことも大切である。どのような活動内容であれ、その場にいること、活動に参加していることに価値がある。誰かが、感謝の気持ちや活動が役に立っていることを言葉にして伝えることが大切である。今後も活躍の場が広がり、継続して取り組まれることを願っている。</p>	<p>○地域連携等に対する教職員の意識啓発 ・おや心の会、民生委員や保護司との会など、多くの場で教職員との接点を増やしていく。 ○地域ボランティア活動の充実 ・生徒の地域でのボランティア参加への啓発を語る。 ・市内のスポーツ行事、祭礼、コミュニティ活動におけるボランティア活動を奨励する。 ・校内ボランティアY P Dの活動の場を設定する。 ○開かれた学校づくり推進の取組 ・学校だより「汐見が丘」を地域へ配付する。 ・関係機関と連携した生徒が主体となって学べる防災学習の実施を取り入れる。</p>	